日本語
パートナーズ

日本語パートナーズの軌跡

2014－2019 in 東南アジア

いっしょに学びあう。
だから通じる。もっと深まる。

言葉や文化の壁を超えて、
思いが通じあうよろこびや、
心のふれあいがくれるあたたかさを、
もっとアジア中に広げたい。

国際交流基金アジアセンターが手がける
“日本語パートナーズ”派遣事業は、
東南アジアを中心としたアジアの中学・高校などで
日本語授業のサポートを行う“日本語パートナーズ”を、
２０２０年までに約3,０００人派遣。
言葉と文化の紹介を通じてグローバル人材を育成し、
インバウンドの下地作りにも貢献しています。

でも、“日本語パートナーズ”の役割は、
単に日本語や日本の文化を伝えることだけではありません。
日本と東南アジア、その文化の違いを
それぞれに学びあうことで多様性への理解を深め、
隣人としての共感を豊かに育むこと。

これからも日本と東南アジアの架け橋として、
私たちはアジアの人々との心の絆を
豊かな未来へとつないでいきます。

“日本語パートナーズ”とは

総人口6億4千万人を超え、今後さらなる発展が見込まれる東南アジア。その東南アジア各国から訪日する観光客、ビジネスパーソン、留学生は過去5年で2倍以上に増えています。また、特に若い世代を中心に日本語学習への関心が高まっています。

こうした中、日本政府は2013年12月の東京での日・ASEAN特別首脳会議において、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に向け、東南アジアを中心とするアジアとの文化交流を強化するための新しいアジア文化交流政策、「文化のWA（和・環・輪）プロジェクト～知り合うアジア～」を発表しました。

その大きな柱の一つが、国際交流基金アジアセンターが実施する“日本語パートナーズ”派遣事業です。

東南アジア各国の日本語教育を支援するため、現地の先生をアシストし、教室の外でも生徒や地域の人たちと交流して、「もっと日本を知りたい」という気持ちに応えています。さらに、“日本語パートナーズ”自身も現地の言葉や文化を学び、相互理解を深めています。

日本と東南アジアを中心とした「アジアの絆」を、将来にわたって確かなものにするお手伝いです。

“日本語パートナーズ”事業の魅力

かつて訪れた国の人々の笑顔が忘れられなくて。自分の特技を生かしたい。退職後のやりがいを求めて。お世話になった人の母国で恩返しがしたい—。

これまで“日本語パートナーズ”に挑戦した皆さんの動機はさまざま。日本語学習のお手伝いをしたいという情熱さえあれば、日本語教育の資格や海外滞在経験がなくても、20歳から69歳までの方が応募できます。

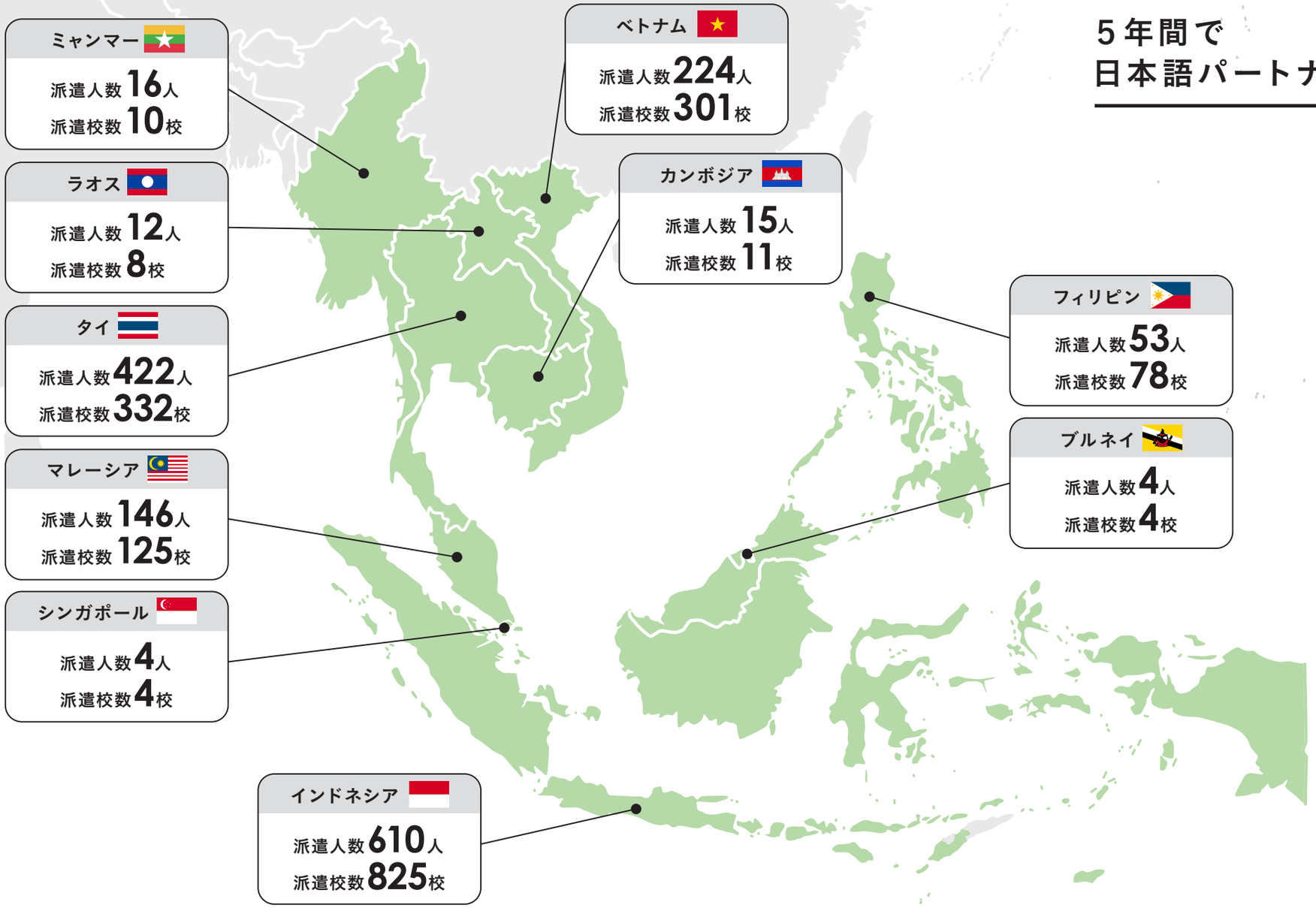
それを可能にするのが充実した派遣前研修。現地の言語だけでなく、生活習慣や宗教、日本との関係などを学び、派遣先の日本語教師を効果的にサポートするための実習も行います。

現地に着いてからも、国際交流基金が日本大使館などと連携して活動を支えます。日本を代表してその国に赴く「公的ミッション」だからこその充実した支援体制があります。“日本語パートナーズ”は参加する皆さんが安心して、それぞれの経験と知識を生かして活躍できる、他にはない海外派遣事業です。

NIHONGO PARTNERS IN SOUTHEAST ASIA

東南アジアでの派遣状況

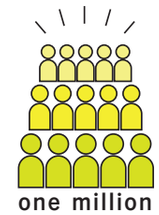
東南アジアの 10 か国に派遣
100 万人を超える生徒や地域の人々に日本の魅力を伝えています



※2018年度末までの実績延べ数

派遣先では、日本語教育をサポートするだけでなく、日本語パートナーズ自身も現地の言葉と文化を学びます。多様な経歴のパートナーズがその国への敬意を払い、地域の人と絆を結ぶからこそ、教科書に載っているものだけではない、生きた日本語、リアルな日本がアジアの人たちに伝わります。これまで約1,500人（2018年度末時点の実績）のパートナーズが東南アジア10か国で活躍し、ほぼすべての派遣校が、生徒の学習意欲と現地日本語教師の日本語力が上がったとパートナーズ事業を高く評価しています。

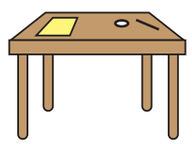
5年間で
日本語パートナーズを 1,506 人派遣



既に
約100万人
に裨益

日本語パートナーズの活動を派遣校の
99.6%
が高評価

日本語授業数が派遣校の
30.2%
で増加



日本語履修者数が派遣校の
47.3%
で増加

※2018 年度中に帰国した日本語パートナーズの派遣校を対象に調査

NIHONGO PARTNERS STORY&INTERVIEW

インタビュー＆派遣国紹介

インドネシア

インドネシア

タイ

タイ

ベトナム

マレーシア

フィリピン

ミャンマー

カンボジア

ラオス

シンガポール

ブルネイ

年齢、職業、出身地、多様な背景を持つ日本語パートナーズ。
応募を決めた理由、派遣国での思い出深いエピソード、そして現地での経験を生かして日本や海外で活躍している近況について、12人のパートナーズにインタビューしました。個性豊かなストーリー、そして派遣先の東南アジア10か国の日本語教育事情について紹介します。

島田 富子
Shimada Tomiko

派遣地	インドネシア　ジャカルタ
派遣校	ジャカルタ第37国立高等学校
活動期間	2015年10月～2016年3月
出身地	石川県金沢市
現職（勤務地）	日本語教師 / 大学非常勤講師（東京都）

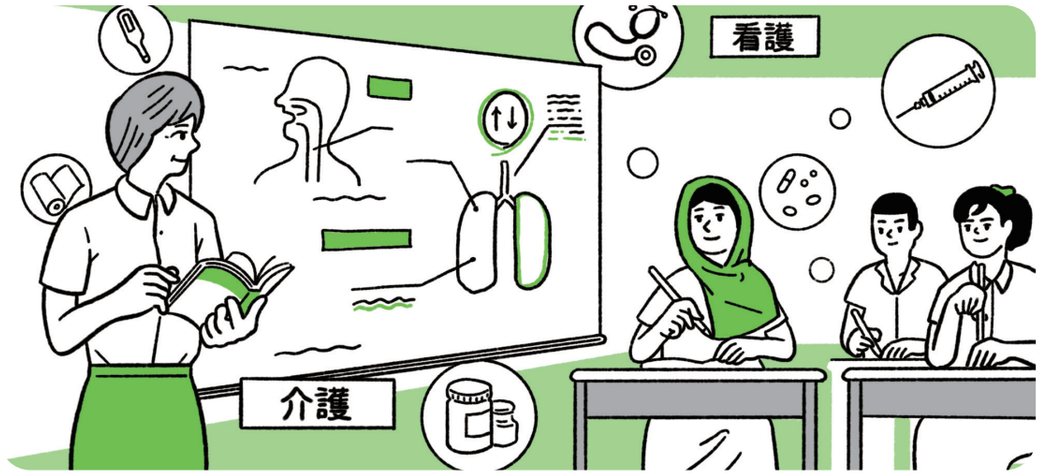
PARTNERS STORY

医療現場での経験を生かして切り開く新たなキャリア

看護師を長く務め、50代で診療情報管理士、60代で日本語教師の資格を取得するなど、精力的に活動してきた島田富子さん。日本語パートナーズに応募したのは、東南アジアで実際に生活して、日本語を勉強している現地の人たちのことを直に知りたいと思ったからです。

派遣先のインドネシアから帰国後、パートナーズだけでなく、これまでのキャリアで培った全ての知識と経験を生かして活躍中。経済連携協定（EPA）に基づく外国人看護師・介護福祉士候補者の受け入れ事業の下で海外から来日し、日本での就職を目指す看護師・介護福祉士候補者に、日本語と国家試験対策を指導しています。パートナーズの経験を通して現地の日常生活に触れ、その考え方や行動をよく理解できるようになったことで、海外からきた候補者たちに日本の医療現場で必要な知識をよりわかりやすく教えることができるようになったと言います。

今後の抱負について、来日するインドネシア人のための医療通訳になりたいと語ってくれた島田さん。パートナーズとして派遣されたことがきっかけで結ばれたインドネシアとの縁を大切に、新しい目標を持ち、これからもバイタリティ溢れる活動を続けていきます。



SHORT INTERVIEW

パートナーズの役割とは？

未来を担う東南アジアの若者に日本や日本人のことを知ってもらうことです。日本語や日本文化を紹介するのは、そのための手段です。パートナーズは現地で生活し共に活動しますから、単に異文化交流という言葉で表されるよりも深いところでお互いを理解できると思います。

文化紹介の授業で一緒に着ようと誘われて記念撮影

看護師の経験と日本語教師の資格のつながりは意識していましたか？

EPAの看護師・介護福祉士候補者のことは知っていましたが、応募したときはまだ日本語教師とつなげて考えてはいませんでしたね。候補者への日本語指導の道があることを知ったのは、派遣前研修で日本語教育のキャリアについて聞いたときが初めてです。これは嬉しい偶然でした。

インドネシア教育大学の看護学部で学生のみなさんと

これまでの経験を今の仕事にどのように生かしていますか？

看護師としての経験があるので、外国から来る看護師・介護福祉士候補者と接する中で、海外の現場との違いがわかります。ですから、彼らを指導するときは、その違いを踏まえて教えています。そうでないと、誤解や判断ミスが出やすくなり、なかなか定着しないからです。また、日本の医療は法律の制約が多い上に、専門職としての責任が伴うので、その点をしっかり理解してもらえるよう心掛けています。

帰国後、現地の先生との交流はありますか？

日本とインドネシアの国交樹立60周年を記念して2018年7月にインドネシアから高校生が60人ほど来日したときに引率してきたのが、パートナーズ時代のカウンターパートの先生でした。また、2018年9月に3年ぶりに私も派遣校を訪問したのですが、その先生がとても喜んでくれました。

インドネシア教育大学で日本の看護についてのミニ講座を実施

現在教えているインドネシア人の生徒たちと来日8か月目の記念写真

中村 允也
Nakamura Masanari

派遣地	インドネシア　シドアルジョ
派遣校	シドアルジョ第I国立高等学校
活動期間	2015年8月〜2016年5月
出身地	東京都葛飾区
現職（勤務地）	会社員（シンガポール）

PARTNERS STORY

日本語パートナーズがキャリアアップのきっかけに

中村允也さんは勤めていた会社を25歳で退職して日本語パートナーズに参加しました。退職に不安はありましたが、案外なんとかなるものだったと言います。言語や文化の習得が参加の目的の一つだった中村さんにとって、活動の幅広さと自由度は、このプログラムの大きな魅力でした。

派遣前の自分を、頑固で優柔不断だったと振り返る中村さん。現地では率先して周りの人と関わり、何事もまずは行動に移し、臨機応変に対応できるようになったと自身の変化について語ります。

中村さんは現在、化学系商社に勤務し、シンガポールで東南アジア地区の営業を担当しています。きっかけはインドネシアで目の当たりにした未整備のインフラ。帰国後、インドネシアの人々が物質的にも豊かで安全な生活を送れるよう貢献したいと考えるようになり、人々の生活を支える化学品を東南アジアで販売する仕事に就きました。

パートナーズの活動から3年後、中村さんの教え子の一人が日本へ留学することになったという知らせが届きました。自身との出会いが一人のインドネシアの若者に影響を与え、日本への留学につながったのであれば嬉しいと語る中村さんの東南アジアの人々との交流はこれからも続きます。

SHORT INTERVIEW

現地に溶け込むためにどのような努力をされましたか？

他人に受け入れてもらうには自分から飛び込んでいくこと、他者を理解しようと努めることが重要だと考えました。そのために朝6時半から授業が全部終わる夕方前まで学校に残り、放課後のクラブ活動に参加し、休日もクラブ活動の試合や発表会によく足を運びましたね。授業の外でも関わりを持つことで、日本語の授業を取っていない生徒たちとも交流が深まりました。

派遣校が洪水にあった際に生徒たちと

現地での印象的なエピソードはありますか？

派遣校が洪水に見舞われたとき、水没したバイクを避難させ、生徒全員が帰るまで警備員と一緒に校舎に残りました。大変な状況でしたが、生徒と洪水の中で遊んだりして、この日を境に生徒がとてもカジュアルに接してくれるようになりました。

派遣校の生徒たちとの一枚

派遣校では中村さんが初めてのパートナーズだったとか？

そうなんです。派遣された町は、ジャカルタのような都会ではなかったので、たくさんの生徒にとって初めて身近に接する日本人が私でした。自分は日本人を代表しているんだ、という意識で毎日を過ごしていました。

パートナーズのやりがいとは？

活動次第で生徒の日本への関心を高められることですね。私は日本語教師の資格もなく、何かを教えようと参加したのではなかったので、授業では自分が伝えたいことよりも、生徒が知りたいことを常に意識していました。そんな努力が実ったのか、最初は日本語履修を希望していなかった生徒が1年の終わりに、来年も授業を受けたいと言ってくれ、少しはパートナーズとして貢献できたかなとホッとしました。

課外活動で参加した派遣校の合唱部の練習の様子

帰国後に、卒業式に参加するため改めて派遣校を訪れました

派遣国紹介 インドネシア

人口：2億5,500万人　言語：インドネシア語
宗教：イスラム教、キリスト教、ヒンズー教、仏教、儒教他 *1

日本への関心が年々高まるインドネシア。この3年で日本への旅行者は約2.4倍になりました。日本語教育にも熱心で、特に中等教育レベルの学習者は70万人以上で世界一。全34州のうち13州で日本語パートナーズが活躍中で、「パートナーズが初めて会った外国人だった」という生徒のいる地域もあります。

数字で見る 日本とインドネシア

訪日旅行者数 UP *2

2017年
291,532人

2014年
120,535人

約2.4倍

中等教育の日本語学習者数 *3

2015年
703,775人

世界一

*参照元は61ページに記載

現地事務所がご紹介「インドネシア教育情報」

パートナーズ派遣校では、カリキュラム変更で存在が危ぶまれていた日本語授業の継続が決まったり、課外活動で日本語クラブが発足したり。これからパートナーズ受け入れ校になりたいと日本語授業を始める学校もあり、パートナーズの存在が、派遣校だけでなく、地域での日本語教育の促進につながっています。

世界無形文化遺産に登録されている伝統的な布、バティックの服はインドネシアの正装で、パートナーズの必須アイテム。学校に行くときも行政機関を訪ねるときも、結婚式も、全部バティックでOKです。先生方やパートナーズの同僚たちとお揃いのバティックを着て仲間意識を感じ、インドネシア文化への敬意を表します。

曜日によって、シャツにネクタイや、白い服、バティックなど、異なる服で生徒が登校する学校もあります。学校での様々な行事とともに、そうした服装もパートナーズの目に新鮮に映る習慣です。

浴衣の着付けを教える文化紹介授業

バティックを着た現地の先生とパートナーズ

私が「日本・日本語に興味をもったわけ」

メガワティ先生
マカッサル第１国立高等学校

生徒たちは、歌を通じた日本語の勉強を楽しんでいます。一番のお気に入りは、ほとんどの生徒が知っている宇多田ヒカルさんの「First Love」。覚えやすいメロディーなので、一度歌詞の意味がわかれば、みんな感情移入して歌うことができます。

若者の間で人気のインドネシアの曲を、シンガーソングライターでジャカルタ在住の加藤ひろあきさんが日本語に訳して歌っています。パートナーズのお別れ会では、生徒たちがRANというインドネシアの音楽グループの「心はすぐそばに」の日本語版を一緒に歌ったこともあります。

高杉 昌明
Takasugi Masaaki

派遣地	タイ　サムットプラカーン
派遣校	バンプリーラートバムルン中学高等学校
活動期間	2016年5月～2017年3月
出身地	兵庫県神戸市
現職（勤務地）	教育アドバイザー（カンボジア）

PARTNERS STORY

タイの教壇で得た喜びが新しい教師人生の原点に

元小学校長で、現在はカンボジアで教員養成校のアドバイザーとして働く高杉昌明さん。奥様を亡くされた寂しさを紛らわすために日本語教師の資格を取る勉強を始めましたが、若い人と一緒に学ぶうちに日本語教師になる意欲と生きるエネルギーが湧いてきたと言います。その頃に通っていた日本語学校の先生から紹介されたのが、日本語パートナーズです。

派遣されたタイでは、再び教壇に立つ喜びを味わうことになりました。日本では失われつつある教師への尊敬の念や年長者を敬う心が感じられ、物質的な豊かさよりも精神的なつながりが生きていく上でのエネルギーになることをタイの人々から学びました。パートナーズの活動で再び得た充実感、達成感、幸福感を忘れられなかった高杉さんは、現在も海外で教育に携わっています。

こうした経験を振り返り、日本で教育現場を経験した人がパートナーズに挑戦する意義は大きいと語る高杉さん。これまで培った教師としてのノウハウを生かした活動ができ、自分の経験が役立つと実感できるからです。パートナーズを通して新たな喜びを見つけた高杉さんの第二の人生の旅は、まだ始まったばかりです。

SHORT INTERVIEW

応募したきっかけは？

5年前に妻を亡くし、ふさぎ込んでいましたが、日本語教師として外国人を教える道があると知って資格取得の勉強を始めました。そのときの日本語学校の先生が、国際協力機構（JICA）や日本語パートナーズを紹介してくれたのです。専門能力を重視するJICAへの応募は見送りましたが、幸いパートナーズとしてタイに行けることになりました。

校外学習として生徒とアユタヤ遺跡に

現在の仕事に就くまでの経緯を教えてください

タイでの活動の後もパートナーズの経験を忘れられず、海外で日本語を教える仕事を探していた折に、パートナーズの仲間の紹介でタイのワットサケーオ校で日本語を教えるボランティアの機会をもらいました。その後は、（公財）神戸国際協力交流センターと（公財）CIESFとが連携して実施している国際協力事業の一環で、カンボジアのコンポントム教員養成校で理科と算数の教育アドバイザーをしています。

節分の日に現地の先生と私が鬼になりました

日本の教育現場経験者がパートナーズに挑戦する意義とは？

日本の教育現場経験者にとって、教えたことの効果がすぐに表れる現地の生徒たちはとても教えがいがあります。また、現地の先生とのチームティーチングで臨機応変に役割分担できますし、日本の教育現場での経験に基づいた提案ができることも強みの一つです。

タイの魅力とは何ですか？

「生きるエネルギー」です。屋台など、雑然とした喧噪の中にエネルギーを感じます。バイクタクシーやトゥクトゥク（三輪タクシー）の値段交渉など、現地の人と会話する場面が多く、そこが魅力です。「微笑みのタイ」といわれるように素敵な微笑みに喜びと元気をもらえます。

生徒たちの笑顔は元気の源

パートナーズ時代の経験を生かし、カンボジアで教育アドバイザーとして活動

佐藤 花美
Sato Hanami

派遣地	タイ　ピサヌローク
派遣校	プリンセス チュラポーン ピサヌローク中学高等学校
活動期間	2015年8月～2016年3月
出身地	北海道岩見沢市
現職（勤務地）	市役所嘱託職員（北海道）

PARTNERS STORY

タイでの経験を生かし、地域の国際交流に貢献

現在、北海道美唄市経済部経済観光課観光振興係で訪日観光客の誘致や外国人の受け入れ環境整備などの仕事をしている佐藤花美さん。大学４年生の夏に参加したタイでのインターンシップをきっかけに、日本語パートナーズに応募したのは大学卒業直後のことでした。

現地での活動中は、力を注いだ分だけ思いが伝わり、反応が返ってくることの面白さ、わかりやすさ、そして厳しさを感じたと話す佐藤さん。日本語教育の充実を目指すだけでなく、現地の先生との協力や生徒と交流する時間を大切にし、日本文化への理解をさらに深めてもらうよう努めました。

パートナーズの活動を終えた佐藤さんは、派遣されたタイの別の学校で日本語教師を務めた後、現職に。タイでの経験を生かし、外国人に配慮して一般的に使われる日本語よりも簡単な表現を使う「やさしい日本語」の講座を開いています。目的は、「やさしい日本語」を使って美唄市の皆さんに国際交流を経験してもらい、異文化や外国語への理解を深めてもらうこと。外国人観光客受け入れにあたっての課題はまだありますが、「まずは異文化交流を楽しむことが大切」というパートナーズの経験から学んだ姿勢を広め、草の根の国際交流に貢献しています。

SHORT INTERVIEW

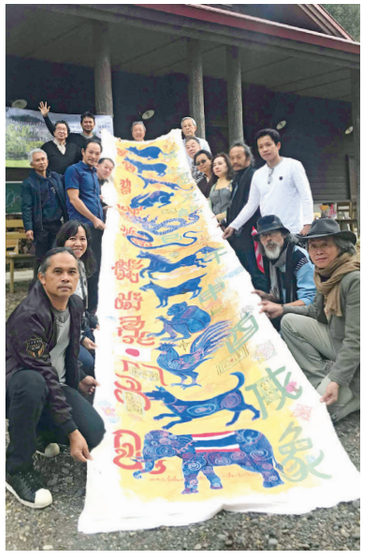
パートナーズの意義とは？

活動後も先生や生徒と交流を続ける人や、現地で再就職する人など、現地と日本の架け橋となる人材が着実に増えていることでしょうか。日本語教育経験のない人も応募できますし、現地の人もいろいろなパートナーズと接することで多様な日本人に触れ、友人の輪を広げる良い機会になります。また、現地では求められたことに対してできる限り“ノー”と言わず精一杯取り組むことで、自身の成長にもつながると思います。

現地の先生とタイ・日本サイエンスフェアのイベントで

現職に就いた理由を教えてください

パートナーズの後、タイでしばらく日本語を教えていましたが、日本に戻り、タイで暮らした経験や日本語教育に携わった経験を生かしたいと思い、タイからの観光誘致に励む北海道美唄市の仕事に応募しました。


タイ・日本芸術文化交流のイベントを北海道美唄市で開催

「やさしい日本語」の取り組みについて教えてください

普通の日本語よりも簡単で外国人にもわかりやすい「やさしい日本語」についての勉強会や講演会のほか、「やさしい日本語」だけで美唄を観光するツアーを実施しました。「やさしい日本語」でのコミュニケーションは、現地の生徒や先生とのやり取りから学んだことの一つです。

現地の日本語教育の状況について教えてください

日本語の授業以外にも、日本語コンテストや日本語キャンプなど、タイには日本語をきっかけに生徒同士が出会い、育つ場が数多くあることに驚きました。卒業して日本語から離れてしまう生徒もいるかもしれませんが、一生の思い出になるような瞬間をタイの先生が真剣に作りあげていること、タイでこんなにも日本語が学ばれていること、そしてその支援をしている国際交流基金の存在を広めていきたいですね。

パートナーズ時代の日本語クラスの生徒たち

タイの現地の先生が日本に遊びに来てくれたときの一枚

派遣国紹介 タイ

人口：6,572万人　言語：タイ語
宗教：仏教、イスラム教他 *1

進出する日系企業はこの3年で約2.4倍に増加。日本語への興味も高まり続け、学習者は2003年からの12年で約17万4千人と3倍以上に。特に、第二外国語に力を入れている中等教育での学習者数は世界で4位、東南アジアで2位の日本語大国。マンガ、アニメ、J-POP、ファッションへの興味から始めた日本語学習が、日本への留学、観光、就職に結びつくこともあります。

数字で見る 日本とタイ

進出日系企業数 UP *4

2017年
3,925社

2014年
1,641社

約2.4倍

中等教育の日本語学習者数 *3

2015年
115,355人

世界4位
（東南アジアで2位）

*参照元は61ページに記載

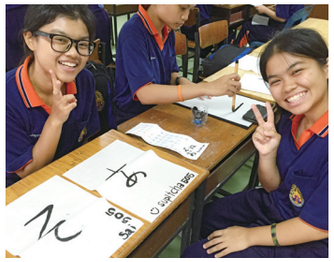
現地事務所がご紹介「タイ教育情報」

タイの中等教育では日本語の授業を行う学校がたくさんあります。専攻科目として学ぶ場合、日本語の授業は週5〜7時間も。日本語パートナーズの受け入れをきっかけに専用教室を設置した学校もあるんです。2018年は、タイの77県のうち、36県にパートナーズを派遣。2019年にはさらに多くの県に派遣される予定です。

タイ人の名前は長くて覚えづらいので、ニックネームで呼び合うことが多く、友達同士でも本名を知らないことも。生徒に覚えやすいタイ風のニックネームを付けてもらうパートナーズもいて、彼らとの距離が縮んで学校の一員になったと感じるそうです。

両手で合掌するタイの挨拶、「ワイ」。手を合わせる高さで相手に対する尊敬の度合いが変わります。目上の人には顎に指先が付くくらい、生徒に対しては軽く胸元で。慣れないパートナーズは、生徒に向かってきちんとしすぎのワイをして、生徒を恐縮させてしまうことも。

日本語を教えるパートナーズと生徒


文化紹介授業で習字に初挑戦した生徒

私が「日本・日本語に興味をもったわけ」

サシトーン　セーンサターン先生
ゲンコイ中学高等学校

生け花、折り紙、茶道など、日本らしさが感じられる日本文化が好きです。テクノロジーの最先端の国でありながら、日本の人は自分の伝統的な習慣を忘れていないんですね。それに、日本には一年中様々なイベントやお祭りがあるので、いつ行っても日本文化に触れることができますよね。

ワーティニー　チャンソンさん
ゲンコイ中学高等学校

日本のアニメを見たり、曲を聞いたり、日本料理を食べたりするうちに、日本語、日本文化、テクノロジーなど、日本のことを知り、もっと好きになりました。日本はモダンで安全で、住みやすそうな国だと思います。

宮本 慧
Miyamoto Akira

派遣地	ベトナム　フエ
派遣校	グエンチフオン中学校/ファンサオナム中学校
活動期間	2016年8月〜2017年6月
出身地	愛知県名古屋市
現職（勤務地）	日本語教師（ベトナム）

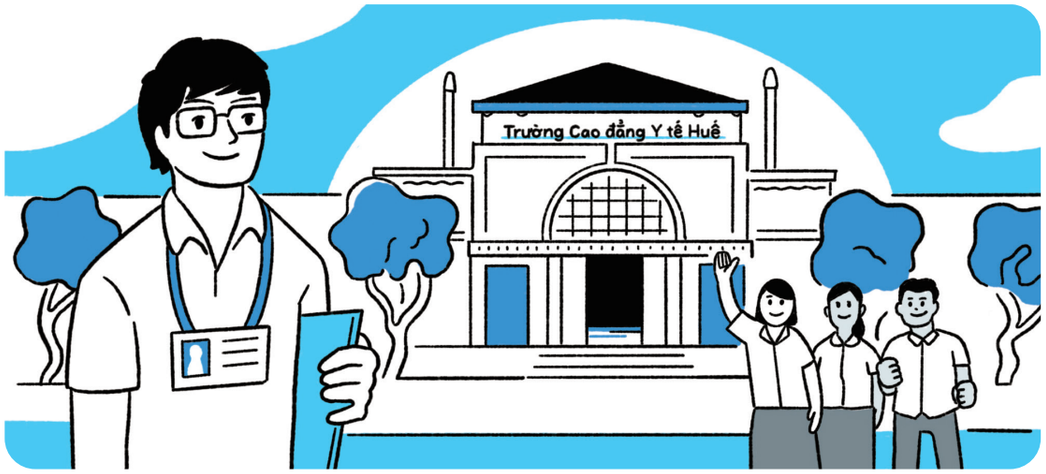
PARTNERS STORY

かつて旅したベトナムが仕事と生活の場に

3年間勤務した製造設備会社を退職して日本語パートナーズに参加した宮本慧さん。社会人1年目に旅行で訪れたベトナムに魅力を感じ、現地で生活したいという思いを募らせていた頃、ベトナムに派遣されるパートナーズの募集を見つけました。メーカーでの営業職を離れての参加に不安はありましたが、このチャンスを逃したくないという気持ちと、帰国しても必ずベトナム関連の仕事が見つかるという「根拠のない自信」に後押しされ、参加を決めました。

その自信は間違っておらず、パートナーズとしての活動を終えた後は、ベトナムのフエ医療短期大学で、日本で介護職に就くことを目指す学生に日本語を教えています。ベトナム人通訳と一緒に授業を進める際には、パートナーズ時代のチームティーチングで身につけた、もう一人の先生を意識しながら話す習慣が役立っているそうです。

たまたま旅行で訪れたベトナムに魅了され、思い切ってキャリア転換に挑戦し、パートナーズに参加することによってベトナムで働く夢を叶えた宮本さん。これからも、日本での就職を希望するベトナムの若者に、仕事に役立つ日本語を教えていきます。



SHORT INTERVIEW

現地でのパートナーズの役割、やりがいは？

パートナーズの役割は、「こっそりと活躍する」こと。授業の中心はあくまで現地の先生であり、パートナーズはサポート役なので、目立ちすぎても埋もれすぎてもダメです。模範解答がなく、それぞれのやり方でできることにやりがいを感じました。私は資料作りが楽しく、いろいろな写真を使って視覚的に理解してもらえるように工夫していました。

授業で折り紙を使ってかぶとを作りました

帰国後も日本で日本語を教えていたそうですね？

愛知県の技能実習生監理団体で約1年間、ベトナム人実習生に、日本語と、ごみの分別方法などの日本での生活習慣を教えていました。自分が実際にベトナムに住んで、習慣、食文化、交通事情などが日本とどう違うのか比較することができたので、パートナーズの経験がとても役立ちました。

派遣校での中秋節のお祝いのダンス

将来の医療従事者に日本語を教える難しさは？

介護分野で働くには、日本語の基礎的な知識だけでなくコミュニケーション能力も大切なので、「話す・聞く」の能力育成のためにリスニングの練習を多く取り入れています。介護専門の日本語教材はまだ少ないので、どう教えるか、現地の先生と相談しながら授業計画を立てています。

パートナーズで関わった生徒との交流は続いていますか？

日本語を勉強していた生徒から、日本語能力試験に合格した連絡や、日本への留学が決まったという報告がありました。当時中学生だった生徒が高校でも日本語の勉強を続けていると知ったり、生徒と再会して上達した日本語で会話ができたりしたときはとても嬉しかったですね。

中学校の閉校式の後に生徒たちと小麦を投げ合ってはしゃいだ後の一枚

愛知県で教えていたベトナム人技能実習生と

派遣国紹介 ベトナム

人口：9,370万人　言語：ベトナム語
宗教：仏教、カトリック、カオダイ教他[*1]

日本への旅行者がここ3年で約2.6倍になるなど日本への関心の高さが窺えるベトナム。日本語能力試験の受験者数が、日本以外では世界第3位の7万人以上に。応募者数は2011年からの6年で約6万9千人も増え、約5倍になりました。2018年の日本への留学生数は約8万1千人、技能実習生数は約16万4千人です。[*5]

数字で見る 日本とベトナム

訪日旅行者数 UP [*2]

2017年
107,162人
2014年
41,375人
約2.6倍

日本語能力試験応募者数 UP [*6]

2017年
85,941人
2011年
17,267人
約5倍

*参照元は61ページに記載

現地事務所がご紹介「ベトナム教育情報」

2003年から始まった「中等プロジェクト」で日本語の授業が取り入れられてから、日本語を教える学校が劇的に増えました。2016年にはハノイとホーチミンで試験的に、小学3年生から第一外国語に日本語が導入されています。

ベトナムの日本語パートナーズの多くは、複数の学校に派遣されます。午前と午後で違う学校に行くこともあり、移動は大変ですが、複数の現地の先生と仕事ができ、たくさんの生徒と関わる楽しみがあります。日本文化紹介のために同じ話をしても、学校によって盛り上がるところが違ったりして、校風の違いも感じます。

長い上着にパンツを合わせる女性の民族衣装、アオザイ。女性の教師、生徒は週一回、アオザイで登校することが校則で決まっている学校もあります。地域によって色やスタイルが違うのも楽しみの一つ。女性パートナーズがアオザイを作って学校で着ていると先生や生徒も喜んでくれ、仲良くなるきっかけにもなります。

JAPAN DAY のイベントで生徒が三線に挑戦

アオザイを着て授業を受ける生徒の様子

私が「日本・日本語に興味をもったわけ」

グエン ティ ゴック ハー先生
ベーヴァンダン中学校

生き物や物にも魂があるという考え方や、剣道や茶道などを「道」として嗜む姿に触れ、日本人の身の回りの物を大切にする心を感じました。シンプルで日常的な材料を使い、おいしくて見た目も美しく、自然や季節に合わせた懐石料理も、日本人らしさの表れですよね。

ルエン　スアン　ズォンさん
ラントゥオン中学校

父の仕事で日本に住んでいたときに、日本人の友達と一緒に勉強したり遊んだりしたことがいい思い出です。パートナーズの先生の文化体験の授業では、日本に住んでいたときには知らなかったことも学べます。特に日本のお寺や神社の文化はすばらしいです。

古庄 麻見
Furusho Asami

Malaysia

★ Alor Setar

派遣地	マレーシア　アロースター
派遣校	スルタナ　アスマ国民中学高等学校
活動期間	2015年1月～2015年10月
出身地	熊本県菊池郡
現職（勤務地）	公務員（東京都）

PARTNERS STORY

友好の花をいつか大きく咲かせるために

教師になる夢を長年持ち続けながら、外国人への日本語教育や国際交流にも強い関心があった古庄麻見さん。日本語パートナーズの募集を新聞で見たときに日本語教師の資格取得中だったことが重なって運命を感じ、「1期として絶対に合格したい！」という強い思いで挑戦しました。

マレーシア1期として派遣された初めてのパートナーズだったため、前例がなく、苦労もありましたが、現地の先生、生徒、教育関係者、地域の方々と積極的にコミュニケーションをとって良好な関係を構築し、今後派遣されるパートナーズのための土台作りに励みました。

そして派遣期間中だけでなく、帰国してからの貢献こそが、パートナーズ経験者の大きな役割だと語る古庄さん。日本を訪れるマレーシア人旅行者の観光案内などをして日本の文化を発信すると同時に、派遣中に知ったマレーシアの良さを日本に伝え、双方向の発信を精力的に続けています。

すぐに成果が出なくても、地道に努力すればマレーシアと日本の間に必ず友好という花が咲くと信じる強い思いが、古庄さんの草の根交流活動を支えています。

SHORT INTERVIEW

現地の日本語教育で驚いたこととは？

日本語を学ぶ生徒が多いことです。一方で、私が「初めて見る日本人」だという生徒がほとんどでした。初日には派遣校からの大歓迎を受け、日本人への関心の高さを肌で感じました。また多民族国家だけあって生徒は幼少から多言語に触れているので、努力次第でかなりの速さで日本語も上達することに驚きました。

好物のマレーシア料理「ラクサ」を先生と生徒たちがふるまってくれました

どうしてラマダン（断食）に挑戦したのですか？

イスラム教色が強い地域だったので、基本的にイスラム教のルールに則った生活をしていました。ラマダン月のときに、最初で最後かもしれないと思って挑戦しました。大変な体験でしたが、ラマダン本来の意味も身をもって学べたし、現地の方は外国人がラマダンに挑戦すること自体に感激してくださり、より一層家族のように受け入れてくれました。帰国後の異文化理解の突破口ともなっています。

大好きな派遣校の生徒たちと

パートナーズの経験から得られるものとは？

仕事や留学とはまた一味違う、現地に根を張り日本について発信をするこの派遣の形には大きな可能性があります。第二の故郷と多くの友人ができ、日本が海外で愛されていることを肌身で実感できます。日本人であることを誇りに思える貴重な事業なので、多くの人に経験してもらいたいです。

帰国後のマレーシア人旅行者の観光案内について教えてください

現地の教職員や生徒、その家族、友人などが四季折々の観光で来日するときに、希望を聞きながら観光案内をしています。これまでで150人ほどになりました。皆さん感謝してくださるので、少しでも両国の橋渡しができているのかなと感じます。毎回笑顔の出迎えと涙のお別れの繰り返しです。パートナーズ経験者冥利に尽きますね。

現地の先生と生徒たちにサプライズで誕生日をお祝いしてもらった思い出の一枚

派遣校での送別会ではこんな素敵なケーキを用意してくれました

派遣国紹介 マレーシア

人口：3,200万人　言語：マレー語（国語）、中国語、タミール語、英語
宗教：イスラム教、仏教、儒教・道教、ヒンドゥー教、キリスト教他*1

多民族国家マレーシア。1980年代の日本に学ぼうという「ルック・イースト政策」の時代から親日的で、日本が大好きという人がたくさんいます。この3年で日本への旅行者は倍増して約40万人に。日本語教育にも熱心で、日本語能力試験の応募者も2017年までの6年間で800人近く増加し、3,500人以上となっています。

数字で見る 日本とマレーシア

訪日旅行者数 UP *2

2017年
399,108人
2014年
211,898人
約1.9倍

日本語能力試験応募者数 UP *6

2017年
3,574人
2011年
2,818人
約1.3倍

*参照元は61ページに記載

現地事務所がご紹介「マレーシア教育情報」

日本語学習者およそ3万3千人のうち約半分が中学・高校で学ぶ生徒たち。約130校に日本語のクラスがあります。中学・高校には全寮制と全日制があり、日本語は、全寮制学校では正規の授業時間内の必修科目として、全日制学校では正規外で選択できる科目として教えられています。

日本語パートナーズ受け入れは2015年から。これまで国内全13州に110人のパートナーズが派遣されました。パートナーズの中には、帰国後またマレーシアに戻って就職したり、派遣校の先生や生徒たちに会いに休暇でマレーシアを再訪する人もいて、思い思いの交流を続けています。

パートナーズは授業以外でも大忙し。派遣校でのイベントの他、日本語クラスがない近隣の学校や、日本語学科はあってもパートナーズがいない大学から、イベントの実施や手伝いを頼まれることも。派遣校の枠にとどまらず、日本文化の発信に努めています。

折り鶴に初挑戦した文化紹介授業

卒業式でのパートナーズと生徒の様子

私が「日本・日本語に興味をもったわけ」

ウイ グアン リー先生
クパラ　バタス理科中学高等学校

日本の気候、食べ物、文化、テクノロジーなどがきっかけで日本に興味を持ちました。特に、日本の四季には憧れます。四季それぞれの花があるのはいいですね。りんごや桃、メロンといった旬のフルーツも、日本に行ったら食べたいです。

ヴァレリー ウライ ディンさん
ミリ理科中学高等学校

日本の文化に関心がありますし、また、日本中のおもしろそうな場所のことを聞き、さらに興味を持ちました。特に、大阪のことについていろいろ教えてもらったので、いつか行ってみたいです。

荒巻 英美
Aramaki Fusami

派遣地	フィリピン　マニラ
派遣校	サウヨ高等学校
活動期間	2017年7月～2018年3月
出身地	熊本県熊本市
現職（勤務地）	行政嘱託職員（熊本県）

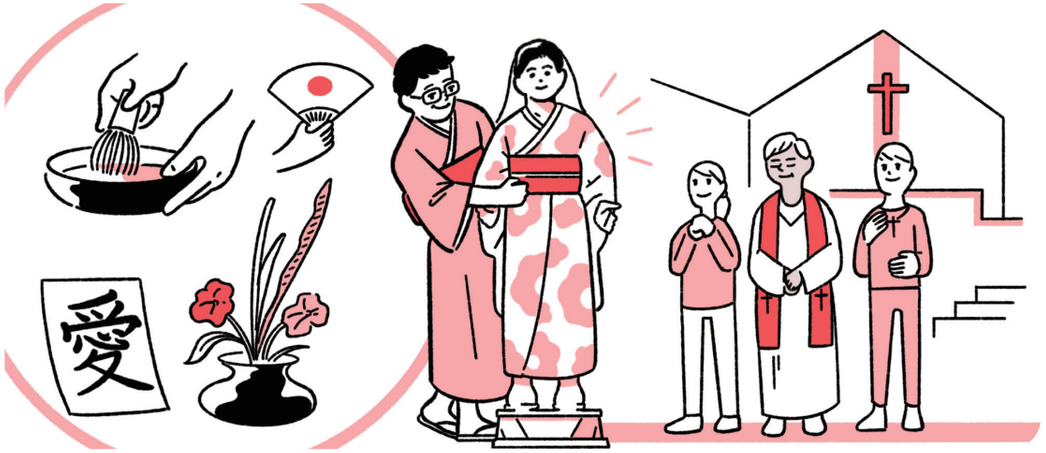
PARTNERS STORY

熊本から、日本文化でつなぐ両国の架け橋に

日本舞踊や着物の着付けなど日本の伝統文化に詳しい荒巻英美さんが日本語パートナーズに応募した理由の一つは、海外で日本文化を紹介したかったから。派遣先のフィリピンの生徒たちには、日本文化に触れ、一つでもいいので心に響くものを見つけて、それをきっかけに日本を好きになってほしいと、日本舞踊、着物、茶道などのイベントを開きました。帰国してからも両国の友好記念イベントに参加したり、フィリピンに日本文化を紹介する活動を続けています。

フィリピンに滞在中、荒巻さんは、かつて長崎で殉教し、マニラで聖人となった日本人女性マグダレーナの像に着物を着付ける機会を得ました。2019年2月にその像が長崎に里帰りしたとき、フィリピン国内に合計8体のマグダレーナ像があることがわかり、他の像にも着物を着せたいとフィリピンの教会関係者から相談されたそう。今後、像が安置されている教会の場所を調べ、それぞれの聖人像に着付けをする計画が進行中です。

パートナーズ時代にできたフィリピンの友人が自分の財産と語る荒巻さん。今後も文化交流の活動を続け、両国の関係をさらに深めていきたいと考えています。



SHORT INTERVIEW

派遣先はどんなところでしたか？

赴任したのは首都マニラの郊外にある公立高校でした。教科書はなく、鉛筆やノートを持っていない生徒も大勢いて、日本とは大違いでした。ただ、どんな不自由な環境でも勉強はできるものですね。生活面で不便なところもありましたが、先生も生徒も地域の人々も明るくおおらかで、あまり不満を言いません。物の豊かさが幸せではないことを教えてもらいました。

現地の日本食レストランで着物体験会を開催

特に心に残っている思い出は？

現地でフィリピン人の着物マニアと知り合い、日本舞踊を指導し、国際交流基金マニラ日本文化センター主催のイベントにも出演しました。彼らとは今も稽古を続けています。帰国後、フィリピン・バギオでの両国友好記念日のイベントに熊本から若草流（小唄）の三味線奏者4人と参加しました。この様子は現地の新聞やテレビでも取り上げられました。

派遣校の授業で生徒たちがかるたに挑戦

日本の伝統文化を紹介してみて、いかがでしたか？

日本の文化を海外で紹介するのは、日本に興味を持ってもらう良いきっかけになると思います。これまで何度も海外の方に踊りを披露し、着物の着付けをしてきましたが、その度に皆さん感激し、とっても喜んで、感謝してくれました。

活動に対する家族の反応は？

フィリピンでの私の取り組みを知っていた家族は、私が帰国した後、国際交流に協力したいと言ってくれました。その言葉通り、昨年秋にインドネシア高校生招へい事業の受け入れの話が来たときに、娘家族もホストファミリーとなってくれました。孫たちにとっても良い経験だったと思いますね。

派遣校での文化紹介の授業で風呂敷を紹介

娘夫婦がホストファミリーとしてインドネシアの高校生を受け入れました

派遣国紹介 フィリピン

人口：1億98万人　言語：公用語はフィリピノ語、英語
宗教：キリスト教、イスラム教他*1

日本への関心が高いフィリピンからの留学生の数はここ3年で約3.2倍になり、日本語学習者の数は2012年から2015年で約1万8千人も増え、5万人以上に。2009年からは中等教育で外国語教育の特別プログラムが始まり、日本語はスペイン語・フランス語・ドイツ語・韓国語・中国語などと共に外国語の一つになり、学校ごとに開講する言語が決められています。

数字で見る 日本とフィリピン

訪日留学生数 UP *7

2018年
2,389人
2014年
753人
約3.2倍

日本語学習者数 UP *3

2015年
50,038人
2012年
32,418人
約1.5倍

現地事務所がご紹介「フィリピン教育情報」

日本語の授業では、プレゼンテーションや日本語を使った短い劇はもちろん、歌やダンスなどが頻繁に取り入れられます。日本語パートナーズが紹介する日本のゲームや体を使った活動も盛り上がり、生徒に大変な人気です。初めは恥ずかしがっていたパートナーズも、活動後半には、先生や生徒と共に歌ったり踊ったりと、フィリピンを全身で楽しめるようになっていきます。

フィリピンでは英語でコミュニケーションがとれることも多いですが、フィリピン人同士だとフィリピノ語やその他、地方言語で話すことも多く、その会話を理解しようと、積極的に現地語を学ぼうとするパートナーズもたくさんいます。

彼ら自身が現地語を勉強するうちに初めての言語を学ぶ難しさに気づき、生徒たちに共感し、それが日本語を教えるヒントにもなっているようです。

日本語の授業で教壇に立つパートナーズ

お箸の使い方を教える文化紹介授業

私が「日本・日本語に興味をもったわけ」

ミッシェル ダイン ルサットさん
アベリアナ国立中学高等学校

日本人のふるまいや態度が大好きです。それ以外に日本のもので好きなのは、初めて見た日本のアニメ「会長はメイド様」です。好きなアーティストはONE OK ROCK。好きな曲は、映画「君の名は。」のサウンドトラック、RADWIMPSの「なんでもないや」です。

マイケル ジェロキュア ソルニーリョさん
アベリアナ国立中学高等学校

日本人のマナーのよさや、他の人との関わり方を見て、いいなと思います。日本文化では、Kiroroの「未来へ」という歌、アニメの「Fairy Tail」、映画「君の名は。」が大好きです。

*参照元は61ページに記載

横山 清夏
Yokoyama Sayaka

派遣地	ミャンマー　ヤンゴン
派遣校	ヤンゴン外国語大学
活動期間	2017年5月～2018年3月
出身地	千葉県松戸市
現職（勤務地）	日本語教師（ミャンマー）

PARTNERS STORY

安定した生活を捨てて飛び込んだ、日本語教師の道

横山清夏さんが日本語パートナーズに応募したのは30代半ばのこと。大学職員という安定した生活を捨てての挑戦でした。いつか海外で日本語教師をしたいという夢を持っていた横山さんは、卒業して新しい世界に旅立つ学生たちをうらやましく思うように。そんなときパートナーズの募集を見かけ、諦めていた夢を実現させたいという思いに駆り立てられました。大きな決断でしたが、後悔したくないという気持ちが勝って応募しました。

現地での活動を通じ、同僚の先生や学生から横山さん自身も気づいていなかった自分の良さを教えてもらったそう。ミャンマーに大きな魅力を感じた横山さんは、もっとこの国にいて恩返しをしたいと思い、活動終了後、首都ヤンゴンにある日本語学校に就職し、2019年3月まで教師を務めました。

生徒たちから「生きているうちは忘れることはない、青空のような先生」という言葉をもらい、涙したという横山さん。現地の先生に教師に向いていると背中を押され、日本語教師の道を進むことを改めて決意しました。今後も、現地での教師経験とパートナーズ時代のワクワク感と教える喜びを胸に、日本語教育に携わっていきたいと前を向いています。

SHORT INTERVIEW

現地の日本語教育について教えてください

ミャンマーでは日系企業の進出が進み、就職のために日本語を学びたいという学生も増えています。ヤンゴン外国語大学日本語学科を志望する学生や日本語能力試験の受験者数も増加しているようです。ただ教え方については発展途上で、先生方が悩む様子を見ることも多く、日本人が現場に必要とされていることは間違いありません。

派遣校で七夕を紹介したときの様子

パートナーズ時代、やりがいを感じたエピソードは？

スピーチコンテストに参加する学生を指導したときのことです。休み時間や放課後に、一緒に何度も練習しました。練習を重ね、発音や動作だけでなく感情も表現できるようになり、本番後に学生から、ここまで来られたのは先生のおかげ、と感謝されたときには本当に嬉しかったです。

派遣校の先生と一緒におそろいのロンジーを着て

派遣期間後の現地での仕事について教えてください

ヤンゴンの日本語学校で日本語教師をしていました。生徒たちはエンジニア・技能実習生・介護技能実習生として日本で職に就くという明確な目標と意欲があり、それに応えようと毎日必死でした。全く日本語がわからなかった生徒が、挨拶ができるようになり、やがて自分の行動を説明し、冗談を交わせるようになるといった成長を見られるのが魅力でしたね。

教え子の皆さんの近況について教えてください

勤めていた日本語学校に、パートナーズ時代の教え子が6人就職しました。「教えてもらった日本の文化やビジネス日本語が役立っている」と言ってくれます。中には日本語教師となった教え子もいて、同じ立場で一緒に働けたことが嬉しかったです。

日本語スピーチコンテストにて学生たちと

ヤンゴンの日本語学校の同僚との一枚

派遣国紹介 ミャンマー

人口：5,141万人　言語：ミャンマー語
宗教：仏教、キリスト教、イスラム教他*1

2011年の民政移管後、日本企業の進出や投資拡大を受けて日本語学習熱が急速に高まっているミャンマー。日本語能力試験の応募者数は2011年の約2,000人から2017年の約2万2千人と、なんと10倍以上に増え、また日本への留学生も2014年からの4年間で約3倍になりました。

数字で見る 日本とミャンマー

訪日留学生数 UP *7

2018年
5,928人
2014年
1,935人
約3.1倍

日本語能力試験応募者数 UP *6

2017年
21,923人
2011年
2,071人
約10.6倍

*参照元は61ページに記載

現地事務所がご紹介「ミャンマー教育情報」

ヤンゴン外国語大学とマンダレー外国語大学の学士・修士両課程で専攻できる日本語は、英語に次いで志願者が多く人気です。ミャンマーの日本語パートナーズの派遣先はこの2大学で、日本人と接することの少ない学生が生きた日本語に触れられる貴重な機会となっています。パートナーズは大学だけでなく、日本留学フェアや国際交流基金の文化事業などで日本紹介の活動を積極的に行っています。

ミャンマーでは先生は尊敬の対象です。仏教行事や学校行事では学生が先生の前にひざまづく儀礼があり、学生と同年代のパートナーズはこの儀礼をされてドギマギするとか。パートナーズは、週の決まった曜日に教員が同じ色の民族服（ロンジー）を着る習慣にも参加するなどすっかり溶け込んでいます。

自国の文化に誇りを持つミャンマーの人たち。パートナーズがミャンマー語を勉強し、伝統舞踊を習ったり僧院での出家体験をするなど、その文化に敬意を払う様子を見て、親しみを持ってくれるようです。

パートナーズと現地の先生のチームティーチング

パートナーズと現地の先生との一場面

私が「日本・日本語に興味をもったわけ」

イ イ マー先生
ヤンゴン外国語大学

パートナーズの先生方から学んだ、日本人の規律正しいところや、他者を思いやる心が好きです。それに日本の歌が大好き。とくにお気に入りのKiroroの「未来へ」は、日本とミャンマーのお祭りの最後に歌われるほど有名で、両国の友好の象徴です。

ス ルウィン ウーさん
マンダレー外国語大学

大学の日本の音楽好きの間では、いきものがかりや西野カナなどが人気。
パートナーズの先生たちと歌いながら日本語を勉強してきました。また、最近、ジャパニーズ・フィルム・フェスティバルで「カメラを止めるな！」が上映された後は、大学中ですごい話題でしたよ。

平 彩奈
Taira Ayana

派遣地	カンボジア　プノンペン
派遣校	王立法律経済大学
活動期間	2017年10月～2018年7月
出身地	東京都北区
現職（勤務地）	日本語教師（東京都）

PARTNERS STORY

日本語パートナーズの経験が変えた日本語教師の心構え

平彩奈さんは東京都内で日本語教師として働く中で、東南アジアの日本語教育の現場を直に見てみたいと思うようになりました。一方で学生時代にカンボジアでボランティアをしたことがあり、いつかカンボジアに戻って現地の人と一生つながる関係を作りたいとも考えていました。そんなとき、日本語パートナーズの募集を知ったのです。授業を補佐するだけでなく日本文化も教えられることに魅力を感じて応募しました。帰国後は日本語教師に復職した平さん。パートナーズ派遣の前と後では、日本語の教え方が変化しました。派遣中、自分の好きなことについては日本語でスラスラ話せている学生の姿を目にしたことから、学生の立場に立った指導を心がけるようになったと言います。また、日本とは異なるその国の文化やライフスタイルへの理解も大切だと実感しました。

現在、平さんは東京都内の日本語学校で、日本の大学や大学院などへの入学を目指して日本語を勉強しているアジアの生徒を指導しています。生徒の日本語力だけでなく、人間性も成長しているのを目の当たりにしたとき、大きなやりがいを感じると語ります。

SHORT INTERVIEW

現地で日本語を教えてみて気づいたことはありますか？

授業で「エプロン」という単語を紹介したとき、学生たちがザワザワするのでどうしたのか現地の先生に尋ねると、カンボジアでは料理の際にエプロンを着ける人がほとんどいないので、イメージが湧かないと言うのです。どんなことも、わかるだろうと決めつけずに、その国の文化や生活様式を知ることが大切だと学びました。

学生とカンボジアの伝統的手織布「クロマー」の展示イベントに参加

パートナーズの経験で学んだことは？

大変なとき、困ったときこそ笑顔でいることを学びました。カンボジアでは、物事がスケジュール通りに進まないことが少なくありません。初めの頃、授業が予定通りにいかないと不安になったのですが、現地の先生はそんなときも、いつも笑顔でした。どんなときも笑顔でいることは、これからの私のモットーです。

派遣校の修了式に先生、学生と

パートナーズの役割とは？

現地の先生と一緒になって授業を作り上げることです。例えば、現地の先生がカンボジア語で日本のお花見について説明した後、私が写真を見せながらお花見の思い出を話したりしました。こうした中で学生たちが日本を好きになってくれて、同時に日本語も上達している姿を見てやりがいを感じました。

現在の日本語教師の仕事について聞かせてください

東京都内の日本語学校で初級と中級の生徒たちを教えています。18歳から20代前半の中国、韓国、インドネシア、ベトナムなどアジアの生徒が多いです。育った環境も文化も異なりますが、生徒たちと共感できることがたくさんあり、そんなときはたまらなく嬉しいです。

派遣校の文化紹介の授業で学生たちは書道に挑戦

文化紹介の一環で親子丼を作る調理実習を実施

派遣国紹介 カンボジア

人口：1,610万人　言語：カンボジア語
宗教：仏教（一部少数民族はイスラム教）*1

進出する日本企業の数が2015年までの5年間で約4倍になったカンボジア。日本語ができる人材の需要が高まっています。日本語は中学・高校の必修外国語ではないので、日本語パートナーズは大学での日本語教育を支援。社会人や、掛け持ちで複数の大学に通う学生が多いため、朝、昼、夜、週末でも日本語を学べる柔軟なスケジュールが組まれています。

数字で見る 日本とカンボジア

訪日旅行者数 UP *8

2017年
8,662人
2014年
2,207人
約3.9倍

日本語能力試験応募者数 UP *6

2017年
2,359人
2011年
1,230人
約1.9倍

*参照元は61ページに記載

現地事務所がご紹介「カンボジア教育情報」

カンボジア最大の公立総合大学、王立プノンペン大学の外国語学部日本語学科は、英語学科に次ぐ数の生徒が受験するなど、日本語学習への高い熱意が窺われます。一般に日本文化への関心も高く、2019年2月の日・カンボジア文化交流イベント「絆フェスティバル」には若者を中心に2万4千人が来場しました。

カンボジアには2016年から派遣が始まった日本語パートナーズ。学生にとって生きた文化を身近で感じられるように、語学だけでなく参加型の日本料理教室など学生が興味を持って楽しめる活動を創意工夫して実施しています。

大学生の多くは将来の計画をしっかり描いていて、入った会社で数年間ノウハウを学んで独立するのが理想と言い、好条件なら転職にも積極的。学生時代に語学を勉強し、働く経験を積むのもそのためです。パートナーズはそんな学生たちを応援し、忙しくても日本語の勉強も続けてほしいと願っています。

短期日本語パートナーズの地方での活動

パートナーズが開催した日本料理教室

私が「日本・日本語に興味をもったわけ」

ヒー シーモーさん
王立法律経済大学

日本の好きな歌は、坂本九の「上を向いて歩こう」。パートナーズの先生に教わった初めての日本の歌です。ゆっくりとしたメロディや歌詞の内容が好きです。一人でいるときや、気持ちが落ち込んでいるときに、この歌を聴くと明るくなり、力が湧いてきます。

最近、日本の人に紹介された日本のドラマ「5→9〜私に恋したお坊さん〜」にはまっています。内容が面白いし、日本のお坊さんの風貌や宗教観がカンボジアとは違うのがわかって、ますます日本に興味を持ちました。

後藤 杏実
Goto Ami

派遣地	ラオス　ビエンチャン
派遣校	ビエンチャン中学高等学校
活動期間	2017年8月～2018年5月
出身地	東京都足立区
現職（勤務地）	独立行政法人現地事務所職員（ラオス）

PARTNERS STORY

ラオスで見つけた、国際協力の仕事

外国人と関わることのできる日本語教師になりたいと考え、大学の副専攻で日本語教育を勉強していた後藤杏実さんは、学生時代に日本語パートナーズに参加しました。

派遣されたラオスの学校では、日本語は必修ではなく、成績順で学習者が振り分けられる選択科目。そのため指導するのは必ずしも日本語に興味のある生徒ばかりではなく、生徒全員が退屈しない授業づくりが難しかったそうです。一方で、授業を面白いものにしようと努力する気持ちが生徒たちに伝わったときに、正面から向き合うことの大切さに気づかされたと話します。

そうした経験を通じて後藤さんはラオスという国をもっと知りたい、この国に戻りたい、と思うように。その希望が叶って、現在は国際協力機構（JICA）ラオス事務所で働いています。

パートナーズへの参加をきっかけに、大学時代からの海外への憧れを、ラオスでの就職という形で花開かせた後藤さん。パートナーズの経験は宝物だと言います。大好きになったラオスと関わる仕事をこれからも続けていきたいという思いを胸に、日本とラオスの絆を深めるために活動しています。

SHORT INTERVIEW

活動終了後、ラオスに戻った経緯は？

ラオスは人が温かく親切で、人と人とのつながりを大切にする国です。当初は全く知らない国でしたが、いつしか魅了されました。ただ、ラオスでの仕事探しはなかなか難しく、諦めかけていた頃、現在の職場の募集を見つけたのです。まさかこんなに早く海外で働けるようになるとは思っていませんでした。

現在の仕事について聞かせてください

JICAラオス事務所で、日本のNGOとJICAの連携を促進する仕事をしています。NGOや大学、自治体などの企画をJICAが支援して共同で実施する草の根技術協力事業に携わったり、SNSやウェブサイト運営などの広報の仕事も担当しています。

パートナーズ時代の授業風景

パトゥーサイ（凱旋門）から見るビエンチャンの風景

パートナーズの経験を通して学んだことは？

一生懸命に工夫すれば伝わるということ。態度が不真面目で授業を理解していない子が多いクラスがあったので、日本語の学習を少しでも楽しめるよう、授業の合間に日本語を用いたゲームなどをしたんです。すると徐々に話を聞いてくれるようになりました。生徒たちが以前の授業中の態度を泣いて謝ってくれたときには、気持ちが伝わっていたとわかって嬉しかったですね。

パートナーズが現地で果たす役割とは？

現地の先生と生徒にとって、日本語ネイティブであるパートナーズが近くにいることは、日本語学習の助けになります。生の日本語を聞き、日本文化を知り、日本人と触れ合う積み重ねが、国同士の信頼関係や日本のファンを作る上で地道ながら大きな影響を与えていると感じます。

生徒がビエンチャンの観光地を案内してくれました

派遣校の先生たちとモン族の新年の祭りに参加

派遣国紹介 ラオス

人口：649万人　言語：ラオス語
宗教：仏教 *1

ここ3年で訪日旅行者が2倍以上になったラオス。2015年に中学・高校の第二外国語に日本語を導入したことがきっかけで、日本語を勉強する生徒が急増中です。日本語教育の歴史が短く、現地の教師も経験が浅いため、日本語パートナーズの役割が重要です。大学講師や日本語専門家による教師向け日本語研修を行うなど、日本語教授力の向上を図っています。

数字で見る 日本とラオス

訪日旅行者数 UP *8

2017年
2,796人
2014年
1,143人
約2.4倍

日本語学習者数 UP *3

2015年
1,046人
2012年
464人
約2.3倍

*参照元は61ページに記載

現地事務所がご紹介「ラオス教育情報」

中学・高校の第二外国語にはフランス語、中国語、ベトナム語、日本語などがあり、日本語を導入している公立学校は4校。今後導入する学校が増える見込みです。日本語を選ぶ生徒は、アニメなど日本文化に興味があり、いつか日本に行ってみたい、日本人と交流したいと思って勉強しています。

ラオスの女性の必須アイテムは「シン」。公務員の女性はシンの着用が義務付けられているため、女性のパートナーズは毎日着て学校に行っています。現地の文化に溶け込んでいると感じてもらえるとともに、正装でもあるため、失礼がなく安心です。

ラオスの主食はお米で、パートナーズにも親しみやすい食文化。お昼は派遣校の先生と一緒に大勢で食べます。川魚に塩と米ぬかを混ぜて発酵させた調味料「パーデーク」はクセになる味。そしてなんといっても一番人気は、炒めたひき肉をハーブやスパイスであえたサラダのような定番料理、「ラープ」です。

シンを着たパートナーズと現地の先生たち

文化紹介授業で初めての浴衣に挑戦

私が「日本・日本語に興味をもったわけ」

オムエム ラーサーワディーさん
ビエンチャン中学高等学校

桜の花を見に日本に行きたいです！
満開の時期が短く、すぐ散ってしまうということですが、写真だと咲いているときも散ってからもきれいで、見ていると穏やかな気持ちになりますね。一度でいいので桜の花びらに触れてみたいです。

チャンスダー ペッサヌバーンさん
ノンポン中学高等学校

日本の食べ物、特にサーモンのお刺身やお寿司が大好きです。
授業で浴衣を着たことがあって、とてもかわいくて大好きになりました。
またいつか浴衣を着たいと思っています。

関岡 良美
Sekioka Yoshimi

派遣地	シンガポール
派遣校	ナンヤン　ポリテクニック
活動期間	2018年5月～2019年2月
出身地	静岡県御殿場市
現職（勤務地）	公立中学校講師（静岡県）

PARTNERS STORY

多様な人々と共に生きる社会に向けて

関岡良美さんは、中学校の英語教師を定年退職した後、日本語パートナーズに参加。帰国してからは再び中学校で英語を教えています。関岡さんがパートナーズに参加したのは、若い頃に海外生活を経験し、いつか再び海外で生活したいと考えていたためです。一方で、英語の授業で外国人の指導助手と連携する中で、自分も海外で日本語の授業のアシスタントをしてみたいと思うようにもなりました。

東南アジアのハブとしての役割を担うシンガポールを派遣国として希望し、多様な民族、宗教、文化が混在するこの国で学んだのは、相手を認め、多様性を受け入れること、そして自分の思いを相手に伝えることの大切さだったと言います。

シンガポールでのパートナーズの経験を、現在講師を務めている中学校の英語の授業に生かしたいと語る関岡さん。他にも、地元の静岡県御殿場市でムスリム学生の短期ホームステイの受け入れを促すために、ハラル食についての学習会の開催を計画中だと言います。これから海外の人々との共存がますます必要となる中で、相手を理解し、自分の思いを伝えるというシンガポールでの学びを地元でも広めていきます。

SHORT INTERVIEW

現地の日本語教育の状況は？

日本企業への就職などのために日本語を学ぶ人が多く、日本語学校も多くあります。中学校では成績優秀者であれば日本語などの第三言語を学習できますが、私の派遣校（日本の高等専門学校に相当）では多くが初めて日本語を学習する学生でした。アニメやゲームの影響で日本に興味を持つ学生が多くて、日本語を独学する学生もいましたよ。

障がい児のためのキャンペーンパープルパレードに生徒と参加

パートナーズの役割とは？

シンガポールには食べ物、アニメ、漫画、ファッションなど日本のものが溢れ、日本の情報もリアルタイムで受け取れます。ただ、実際に日本人と接する機会は多くないので、学校でパートナーズと日本語で話したり、日本について聞いたりすることは、インターネットで情報を得るのとは違った価値があったと思います。

ナンヤンポリテクニックのスタッフと

パートナーズの経験を通して変化はありましたか？

シンガポール人は多様な人々を受け入れ、共存するための知恵として、好意や親切を言葉や行動ではっきりと伝えます。これは日本人はあまり得意ではないかもしれませんが、私はシンガポールの人たちに倣い、自分の思いや相手に対する好意をしっかり伝えるようになりましたね。

今後の教師生活に経験が生かせることはありますか？

日本文化を紹介する授業で、浴衣の着付けや折り紙、お辞儀やマナーなどについて説明しましたが、授業の準備をしながら、日本人でも知らないことがたくさんあると気づきました。こうしたことは日本の中学生も知らないことが多いので、中学校でも教えていきたいです。

現地のサマーフェスティバルに学生と参加

授業で暑中見舞いを紹介して日本の中学生と文通を始めました

派遣国紹介 シンガポール

人口：561 万人　言語：公用語は英語、中国語、マレー語、タミール語
宗教：仏教、イスラム教、キリスト教、道教、ヒンズー教 *1

華人系、マレー系、インド系で構成され、英語、様々な方言を含む中国語、マレー語といった言語が飛び交い活気にあふれるシンガポール。日本への旅行者はここ3年で倍増、進出日本企業も3年で約1.5倍に。東南アジアの拠点として日系企業の支社も多く、日本と密接な関係があり、日本語学習も盛んです。

数字で見る 日本とシンガポール

進出日系企業数 UP *4

2017年
1,199 社
2014年
779 社
約1.5倍

訪日旅行者数 UP *2

2017年
364,962 人
2014年
194,092 人
約1.9倍

*参照元は61ページに記載

現地日本大使館がご紹介「シンガポール教育情報」

在留邦人が3万6千人にのぼり、近年日本に旅行する人も増えているシンガポールでは、日本はとても身近な外国です。日本語パートナーズが派遣されているのは、国内に5つあるポリテクニック（日本の高等専門学校に相当）の一つ、ナンヤンポリテクニック。シンガポールのポリテクニックとは、実学的・職業的な知識を身につけたいと考える学生が進む学校です。

日本語の授業は大人気で、パートナーズはアクティビティやワークショップを行うこともあります。日本語ネイティブのパートナーズがいることで、学生たちは生の日本語や発音が学べるだけでなく、日本で何が流行っているかといった情報も聞けて日本文化に親しみを感じ、もっと学びたいという気持ちが高まっています。

授業以外でも重要な役割を担うパートナーズ。両国の政府間合意のもと日本大使館内に日本のソフトパワー発信拠点として設立されたジャパン・クリエイティブ・センターによる交流活動にも、積極的に参加しています。

「組みひもアート」を紹介するパートナーズ

イベントで法被を着て東京五輪音頭を PR

私が「日本・日本語に興味をもったわけ」

ジュディ イップ先生
ナンヤン　ポリテクニック

日本のマンガやアニメが大好きという学生が多く、共通の趣味を持つ日本人と友達を作って交流したいということが日本語学習の動機になっているようです。

キャサーリン　スー氏
ナンヤン　ポリテクニック
マネージャー

パートナーズが以前「組みひもアート」のワークショップをしてくれたことがあり、学生たちは日本の伝統工芸に夢中になり、日本文化に興味を持つきっかけになりました。私自身も勉強になりました。

河原 正人
Kawahara Masato

派遣地	ブルネイ　ガドン
派遣校	教育省ブルネイ技術教育インスティテュート
活動期間	2018年2月～2018年12月
出身地	富山県高岡市
現職（勤務地）	会社員（石川県）

PARTNERS STORY

ブルネイと日本をつなぐ「民間外交官」

製薬会社のMR（医薬情報担当者）として働いていた河原正人さんは、会社で新しく始まった海外居住休暇制度を利用して日本語パートナーズに参加しました。

日本人にはあまりなじみのないブルネイ。ムスリムが多いため酒もタバコもギャンブルもなく、一見、楽しみが少ない国のように思えますが、河原さんは「平和と満腹」を堪能できる国だと振り返ります。

また、ブルネイで日本のことがあまり知られていない状況に驚いた河原さんは、日本人とブルネイ人にお互いのことをもっと知ってもらいたいと考えるようになりました。そこで力を入れたのが、自身のブログでの発信。「ブルネイ・マレー語単語集」を公開したり、ブルネイのローカル情報を掲載したりしています。パートナーズは「民間外交官」だと語る河原さん。すっかりブルネイ通になり、現地で撮影した写真の展覧会を日本で開きたいとも言います。

河原さんは帰国後、元の職場に戻り、以前と同じ業務を担当しています。自分の生活を大きく変えず、会社の休暇制度を利用して参加し、帰国後はできる範囲で派遣国との交流に貢献する。これもパートナーズの一つの形です。

SHORT INTERVIEW

ブルネイとはどのような国ですか？

ブルネイの人は穏やかでマナーが良いです。一番驚いたのは、横断歩道に人が立つと車が100%停まってくれること。車同士の譲り合いの文化も浸透しています。それから、レストランでカメラを忘れても、街中で携帯電話を失くしても、後からちゃんと戻ってきたということもありました。ブルネイは性善説が当てはまる国だと感じました。

断食明けのハリラヤでは職員の「にわか親族」として参加

パートナーズのやりがいとは？

パートナーズは、学んだ日本語の生かし方を具体的にイメージできるようなアドバイスをすることで、学生のモチベーションを上げることができます。そうやって、日本との架け橋になる若い世代の人材育成に関われることにとてもやりがいを感じました。

美しいブルネイ川の夕暮れ時

現地の日本語教育の状況は？

残念ながら、日本の影の薄さを感じました。他の ASEAN 諸国では決してなかったことです。韓国語と中国語に押されて、日本語の人気が高いとは言えません。派遣校でも日本語を勉強したい学生が少なくて、開講できるかギリギリの状況が続きました。でも、日本のアニメは人気があって、日本語を学ぶ動機にもなっていましたね。

パートナーズの経験を今後どのように生かしていきますか？

私はMRとして、毎日、医療機関を訪問しています。観光客が増えて外国人が日本の医療機関を受診する機会も多くなっていますが、言葉も習慣も違うため患者も医師も不安だと思います。ブルネイに派遣されて、ムスリムの気持ちが少しはわかるようになった気がするので、医療現場の実情を見ながら、外国人、特にムスリムに対する診療を改善するにはどうしたらいいか、考えていきたいですね。

帰国後に再びブルネイを訪れて友人の結婚をお祝いしました

派遣校の職員と学生を対象に実施した合気道教室の様子

派遣国紹介 ブルネイ

人口：42万人　言語：マレー語、英語、中国語
宗教：イスラム教、仏教、キリスト教他 *1

ブルネイは人口約42万人の比較的小さな国ですが、アニメや日本食、旅行などがきっかけで日本に興味を持つ人は多く、日本語学習に取り組む人も徐々に増えています。進出する日系企業はここ3年で1.5倍に増え、日本への旅行者数も2014年からの3年でほぼ倍となっています。2019年3月からはブルネイ・成田間の直行便が就航し、今後両国間の交流の活発化が期待されます。

数字で見る 日本とブルネイ

進出日系企業数 UP *4

2017年
15社

2014年
10社

1.5倍

訪日旅行者数 UP *8

2017年
3,009人

2014年
1,372人

約2.2倍

*参照元は61ページに記載

現地日本大使館がご紹介「ブルネイ教育情報」

ブルネイで公的な日本語教育が行われているのは、ブルネイ大学と教育省ブルネイ技術教育インスティテュートの2校。後者の教育省の日本語講座には日本人講師がいないため、正確な発音など、日本語を教える際に課題がありました。

そんな中、パートナーズが派遣され、学生が日本人と交流し、ネイティブの発音や話し言葉の日本語に触れることができるようになりました。ブルネイの学生たちに貴重な機会を提供していると、派遣校ではパートナーズの活動が高く評価されています。

ブルネイでは、人や物を指すときに人差し指ではなく親指で指し示します。パートナーズは初めはこのしぐさに慣れず、驚いてしまうそうですが、現地の人々と接しているうちに、帰国する頃には自然に身についています。日本に帰ってからもこの癖が抜けず、家族や友達に驚かれることもあるといいます。

日本大使館と派遣校でワークショップを共催

ラマダン（断食月）中の学校行事

私が「日本・日本語に興味をもったわけ」

アリ スーフィー アリパー先生
ブルネイ技術教育インスティテュート

日本文化が大好きです。特に日本語、言語文化の面だと、人を呼ぶときに「○○様」とか「○○ちゃん」など、様々な言い方がありますよね。そういうところがとっても興味深いです。

ヌール アキラ モハマッド ザインさん
ブルネイ技術教育インスティテュート

日本や日本語に興味を持つきっかけはたくさんありますが、中でも一番惹かれたのは料理です。食材を重視し、飾りつけも重要で、味・食感・見た目など、その全てで楽しませてくれますよね。食卓を彩る食器もきれいで、お腹だけでなく心も満たされると感じます。

VOICES FROM SOUTHEAST ASIA

東南アジア　現地からのメッセージ

VOICES FROM INDONESIA

インドネシアからのメッセージ

トゥティック　ドウィ　ウジアニ先生
シドアルジョ第3国立高等学校

日本語パートナーズが来る前は、生徒は日本語の授業自体にあまり興味を持っていませんでしたが、パートナーズが来て、生徒と一緒になって取り組むことで、一生懸命勉強してくれるようになりました。教師としては、パートナーズと二人三脚で授業の準備をすることができ、とても心強いです。日本語を学ぶ生徒が1,000人もいますので、これからもパートナーズがいてくれたらと思います。

クルニア　アスマラ　デタ先生
ジャカルタ第110国立高等学校

パートナーズが来てから生徒の日本語授業への姿勢が変わりました。「先生、私は日本語の先生になりたい」「日本で勉強したい」「日本で仕事をしたい」と、生徒がよく私に言ってくるようになりました。自分の将来と日本語学習をつなげて考えるようになり、勉強に対するモチベーションが上がっています。本当に嬉しいです。

ハニヤ　サルサビラさん
ジャカルタ第110国立高等学校

パートナーズから学べる利点は、パートナーズと日本語で直接対話できること。ネイティブの人と話すことで、言葉を勉強しやすくなります。私の将来の夢は外交官になることです。外国で経験を積み、夢を叶えるために、日本語を引き続き勉強し、日本への交換留学プログラムに参加したいと思っています。

VOICES FROM THAILAND

タイからのメッセージ

ラヴィーワン　ブンマー先生
ピリヤーライ プレー中学高等学校

最初は、日本語を勉強していても日本語で話すことを恥ずかしがる生徒もいたんです。でも日本語パートナーズが、習った単語を使って生徒に声をかけて話すきっかけを作ってくれたり、お昼を一緒に食べてくれたおかげで、生徒たちは1〜2か月のうちに、恥ずかしがらず自信を持って日本語でコミュニケーションできるようになりました。日本語能力試験を受ける生徒の数も増えました。

スタシニー　スクヴィセート先生
ピリヤーライ プレー中学高等学校

パートナーズが来てからは、私自身それまであまり使う機会がなかった日本語を毎日話すようになり、また、生徒の日本語も上達し、学習意欲も上がりました。パートナーズとの経験は生徒や学校の先生にとって、とても価値があるものです。パートナーズが派遣されてから毎年日本語コンテストの全国大会に出場し、2017年も2018年もコンテストで金賞を受賞したんですよ。

ワリントーン　シーカムさん
ピリヤーライ プレー中学高等学校

日本語のひとつひとつの言葉を日本人と同じぐらい正確に発音したり、聞いて理解できるようになりたいです。日本の経済発展について勉強したいので、日本に留学するのが夢です。パートナーズの先生たちは私たちにわかりやすいように簡単な言葉でコミュニケーションしようと頑張ってくれます。

VOICES FROM VIETNAM

ベトナムからのメッセージ

フン　ティ　チン先生
ラントゥオン中学校

私自身、日本の知識が豊富とは言えないので、日本語パートナーズに教わることがたくさんあり、おかげで日本語力も上がりました。生徒たちにとっては、パートナーズは先生というより友達。興味のあることをパートナーズに話していて、それも参考にしてよりおもしろい授業にできていたと思います。機会があればまた私たちの学校に戻ってきてほしいです。

グエン　ラン　フォンさん
ラントゥオン中学校

私は日本語、日本の文化、特に料理に興味があります。
夢は日本語教師になること。日本に留学もしたいし、日本の本を読んだり映画を観るのに勉強した日本語が役立つといいなと思います。パートナーズのひとりがベトナムで挙げた結婚式に呼んでもらって感動しました。これからもパートナーズの先生たちと交流を続けたいです。

ルエン　スアン　ズォンさん
ラントゥオン中学校

父の仕事で日本に住み、学校に通った経験がとても楽しかったので、いつかまた日本で生活したいです。僕はデザインがきれいでストーリーもおもしろい日本のゲームが大好き。将来は日本でゲームのプログラマーになりたいです。世界中の有名な場所にちなんだレース場をデザインしたレースゲームを作り、いろいろな国からのプレイヤーを集めたりしたいです。

VOICES FROM MALAYSIA

マレーシアからのメッセージ

フィオナ　トー　シュー　チュー先生
ミリ理科中学高等学校

生徒たちは初め、日本語パートナーズと話すのを恥ずかしがっていましたが、話したい気持ちが強かったようでだんだん積極的に。パートナーズが授業に自分の友達を招いて生徒たちと話す機会を作ってくれたのも、生徒たちの会話力と聞く力を上げるのに役立ちました。おかげで生徒たちは日本語や日本についてもっと知りたいと、より前向きに取り組むようになりました。

キャシー　ウィー　ミー　ランさん
ミリ理科中学高等学校

日本の最先端技術と歴史に興味があり、日本の学生が技術のことをどう学んでいるのかも実際に見てみたいので、日本でホームステイして学校に行きたいです。
難しいかもしれませんが、とてもきれいで繊細な和菓子作りに挑戦したいです。

ヴァレリー　ウライ　ディンさん
ミリ理科中学高等学校

パートナーズの先生と過ごした時間は私の大切な宝物。一緒に飲んだ初めての「ラムネ」は絶対に忘れません。日本にホームステイして日本の人々の生活スタイルを身近で経験しながら、大学に通うのが夢です。同じ世代の日本の友達をたくさん作りたいですし、後輩にも日本語を教えたいですね。

VOICES FROM PHILIPPINES

フィリピンからのメッセージ

アルマルナ　ルマパック先生
アベリアナ国立中学高等学校

日本語ネイティブのパートナーズが来てから授業ががらりと変わりました。パートナーズが日本語を読むと、生徒たちもノリノリでその真似をして、本当に楽しそうです。みんなの日本語の発音が格段に良くなりましたね。それに、私たちが日本語や文化を学ぶのと同時に、パートナーズも私たちの言語や文化を学んでくれて、より深くお互いのことを理解し合えるようになったと思います。

アレクサンドラ　ヴィリャソル先生
アベリアナ国立中学高等学校

パートナーズのおかげで、授業が活発になりました。例えば、生徒たちは、パートナーズから日本の童話「葉っぱのフレディ」の物語の意味を教わったことに刺激されて、日本語の文章を覚えるのではなく、意味を理解しながら読もうとするように。発音を学ぶだけでなく、文章の意味に興味を持つようになりました。

マイケル ジェロキュア ソルニーリョさん
アベリアナ国立中学高等学校

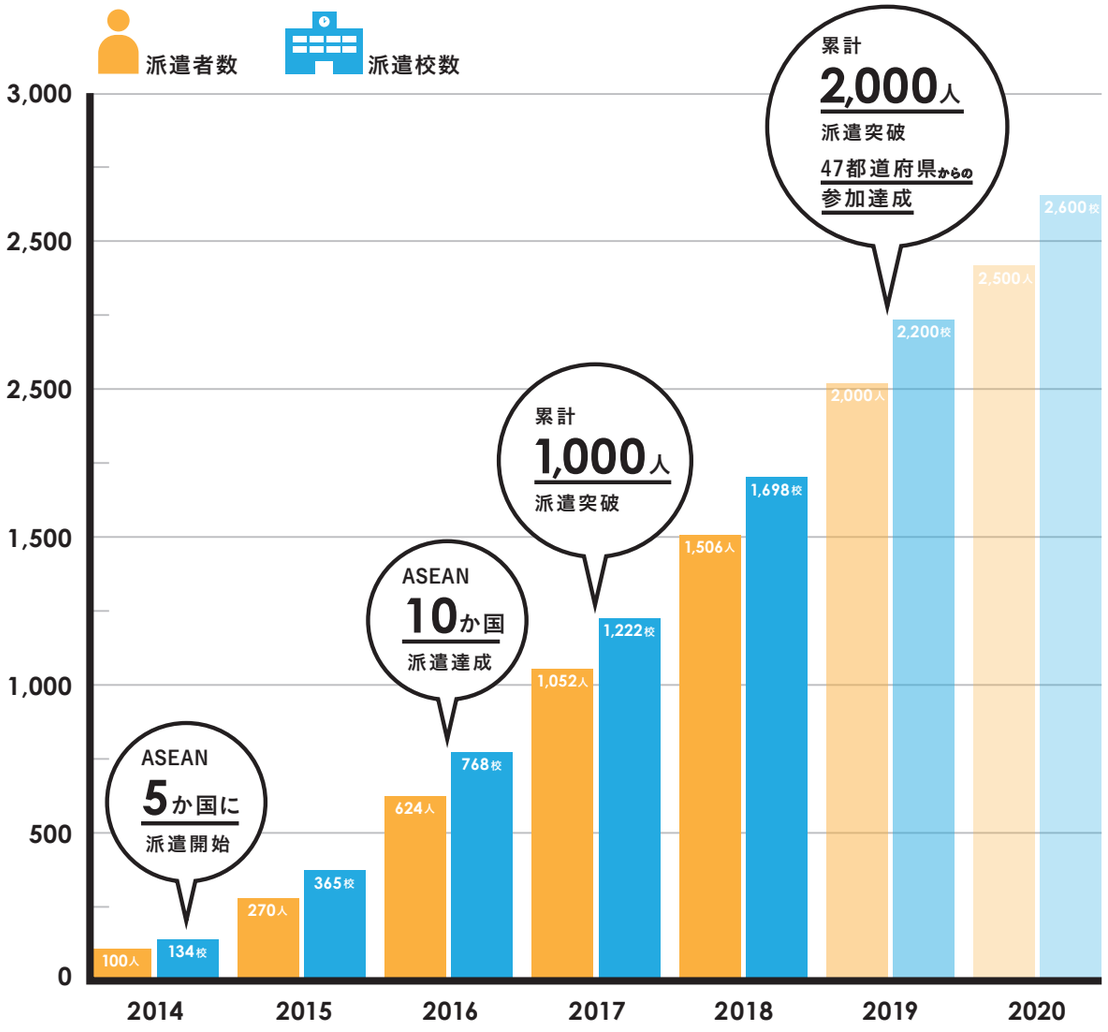
高校ではエンジニアの勉強をしますが、いつか医者になるのが目標です。数年間の日本語学習はいろんなことに役立つと思うし、日本語の勉強を続けることで医者になる夢にも近づけるといいなあと思います。パートナーズの先生がまた来てくれると嬉しいです。他の日本人ももっとフィリピンに来てほしいです。

ACHIEVEMENTS & BEYOND

日本語パートナーズ派遣事業の成果と今後

2020年に向けて、東南アジアとの文化的つながりを強化

東南アジア 10 か国で活躍している日本語パートナーズ。パートナーズは都市部のみならず地方にも派遣されており、「初めて出会う日本人がパートナーズ」という学習者も大勢います。日本語と日本文化を伝えるだけでなく、自身も現地の言葉と文化を学び、帰国後も派遣先について情報発信していくパートナーズは、日本と東南アジアの国々をつなぐ架け橋。2020 年までに東南アジアに約 2,500 人を派遣予定です。



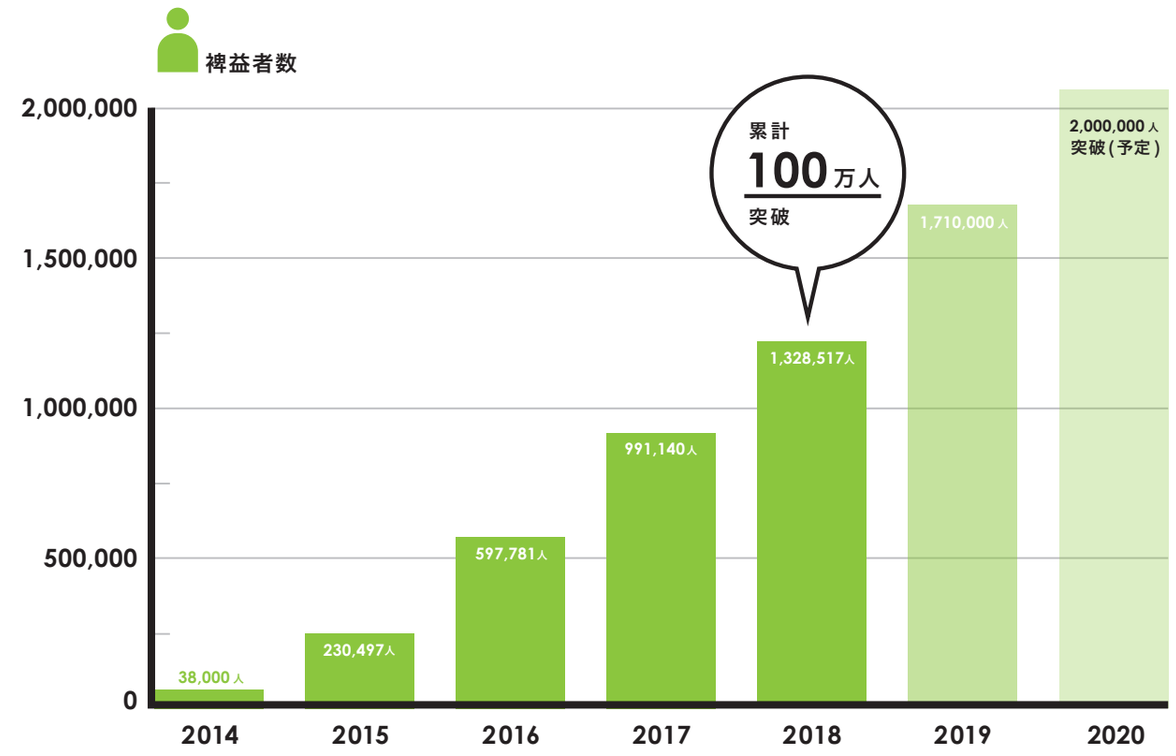
各年の数値は累計、2019 年、2020 年は見込みの数値です。

これからの多文化共生社会へ

パートナーズの約半数が、派遣後も日本語教育に携わっています。中には、技能実習生や経済連携協定（EPA）看護・介護人材の支援の仕事に就く人も。アジアの人々と心が触れ合う交流を経験したパートナーズは、これからの多文化共生社会での活躍が期待されます。また、若い世代だけでなく、定年退職したシニア世代も積極的に社会と関わり、活躍しています。

ビジネス分野の人材創出

パートナーズが活動を通じて得る異文化体験、語学力やネットワークは一生もの。こうした財産を生かして、派遣後に東南アジアでのビジネスやインバウンド関連の仕事に携わる人も多く、日本で、海外で、人と人との交流がさまざまな形に発展しています。



各年の数値は累計、2019 年、2020 年は見込みの数値です。
※裨益者数：パートナーズから日本語の指導を受けた学習者数およびパートナーズによる日本文化紹介等に参加した人数

【掲載データ参照元】

*1 人口、言語、宗教：外務省各国基礎データ
https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/

*2 訪日旅行者数（インドネシア、ベトナム、マレーシア、シンガポール）：
日本政府観光局（JNTO） 国籍別 / 目的別 訪日外客数（2004 年～ 2017年）
https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/tourists_2017df.pdf

*3 日本語学習者数：国際交流基金日本語教育機関調査
https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/index.html

*4 日系企業数：外務省海外在留邦人数調査統計平成 30 年詳細版
https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000394749.pdf

*5 訪日留学生 / 技能実習生数：法務省 平成 30 年末現在における在留外国人数について
http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri04_00081.html

*6 日本語能力試験応募者数：日本語能力試験実施国・地域別応募者数・受験者数
https://www.jlpt.jp/statistics/archive.html

*7 訪日留学生数：日本学生支援機構（JASSO） 外国人留学生在籍状況調査結果
https://www.jasso.go.jp/about/statistics/intl_student_e/index.html

*8 訪日旅行者数（カンボジア、ラオス、ブルネイ）：
法務省 出入国管理統計 国籍・地域別 新規入国外国人（短期滞在・特定活動等の入国目的）
http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_nyukan.html

※本冊子に掲載している方々の情報/所属等は2019年4月現在のものです。

謝辞

本冊子の制作にあたり、日本と東南アジアの交流に携わる多方面の方々より多大なご協力を賜りました。深く感謝申し上げます。

本冊子は、国際交流基金アジアセンターの「響きあうアジア 2019」の一環で制作されました。

ASIA IN RESONANCE
響きあうアジア 2019

国際交流基金アジアセンター
The Japan Foundation Asia Center

〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-16-3 川辺新宿御苑前ビル 7 階
TEL: 03-5369-6136 FAX: 03-5369-6036 E-MAIL: nihongopartners@jpf.go.jp
https://jfac.jp/partners

/jfnihongopartners/ /jfasiacenter/

©2019 The Japan Foundation 2019年6月発行

ASIA center
JAPAN FOUNDATION